

2015年3月期 第2四半期決算説明会



スズキ株式会社
2014.11.6

・ 増収、営業利益前年並み

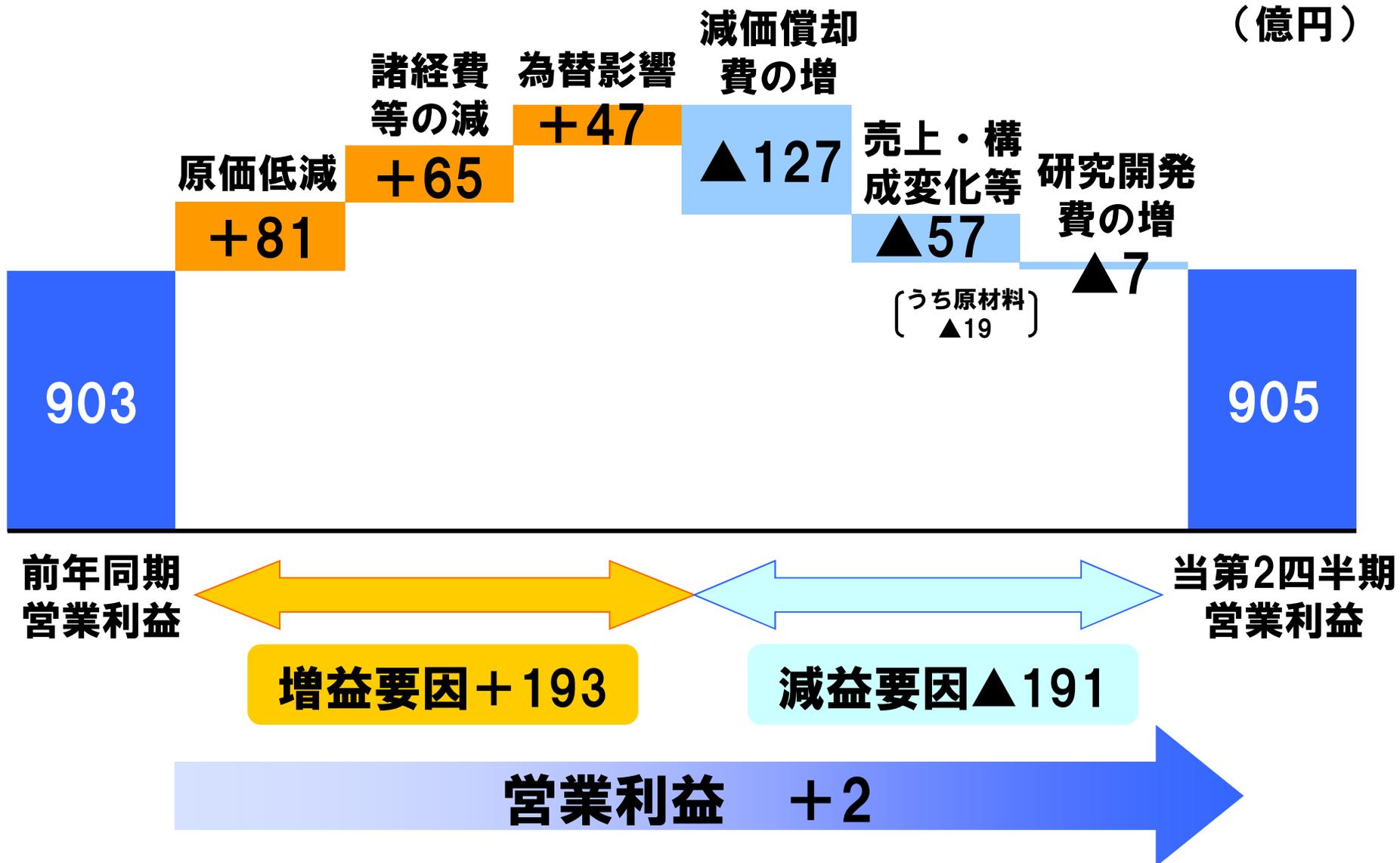
(億円)

	当第2四半期 (’14/4-9)	前年同期 (’13/4-9)	増 減	
			増 減	増減率
売上高	14,307	13,702	+605	+4.4%
国内売上	5,207	5,043	+164	+3.3%
自 社	4,513	4,554	▲41	▲0.9%
OEM	694	489	+205	+42.1%
海外売上	9,100	8,659	+441	+5.1%
営業利益 (利益率)	905 (6.3%)	903 (6.6%)	+2	+0.3%
経常利益 (利益率)	972 (6.8%)	924 (6.7%)	+48	+5.2%
四半期純利益 (利益率)	539 (3.8%)	517 (3.8%)	+22	+4.4%

(億円)

	二輪			四輪			特機等			合計			内、為替 換算影響
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	
国内計	111	125	▲14	5,004	4,820	+184	92	98	▲6	5,207	5,043	+164	
自社	111	125	▲14	4,310	4,331	▲21	92	98	▲6	4,513	4,554	▲41	
OEM				694	489	+205				694	489	+205	
海外計	1,124	1,261	▲137	7,758	7,215	+543	218	183	+35	9,100	8,659	+441	+149
欧州	208	214	▲6	1,602	1,385	+217	72	53	+19	1,882	1,652	+230	+134
北米	195	224	▲29	25	54	▲29	95	82	+13	315	360	▲45	+11
アジア	510	607	▲97	5,135	4,843	+292	16	18	▲2	5,661	5,468	+193	▲6
その他	211	216	▲5	996	933	+63	35	30	+5	1,242	1,179	+63	+10
総合計	1,235	1,386	▲151	12,762	12,035	+727	310	281	+29	14,307	13,702	+605	+149
内、為替 換算影響			+11			+132			+6			+149	

※当期・・・2014年4～9月期、前期・・・2013年4～9月期



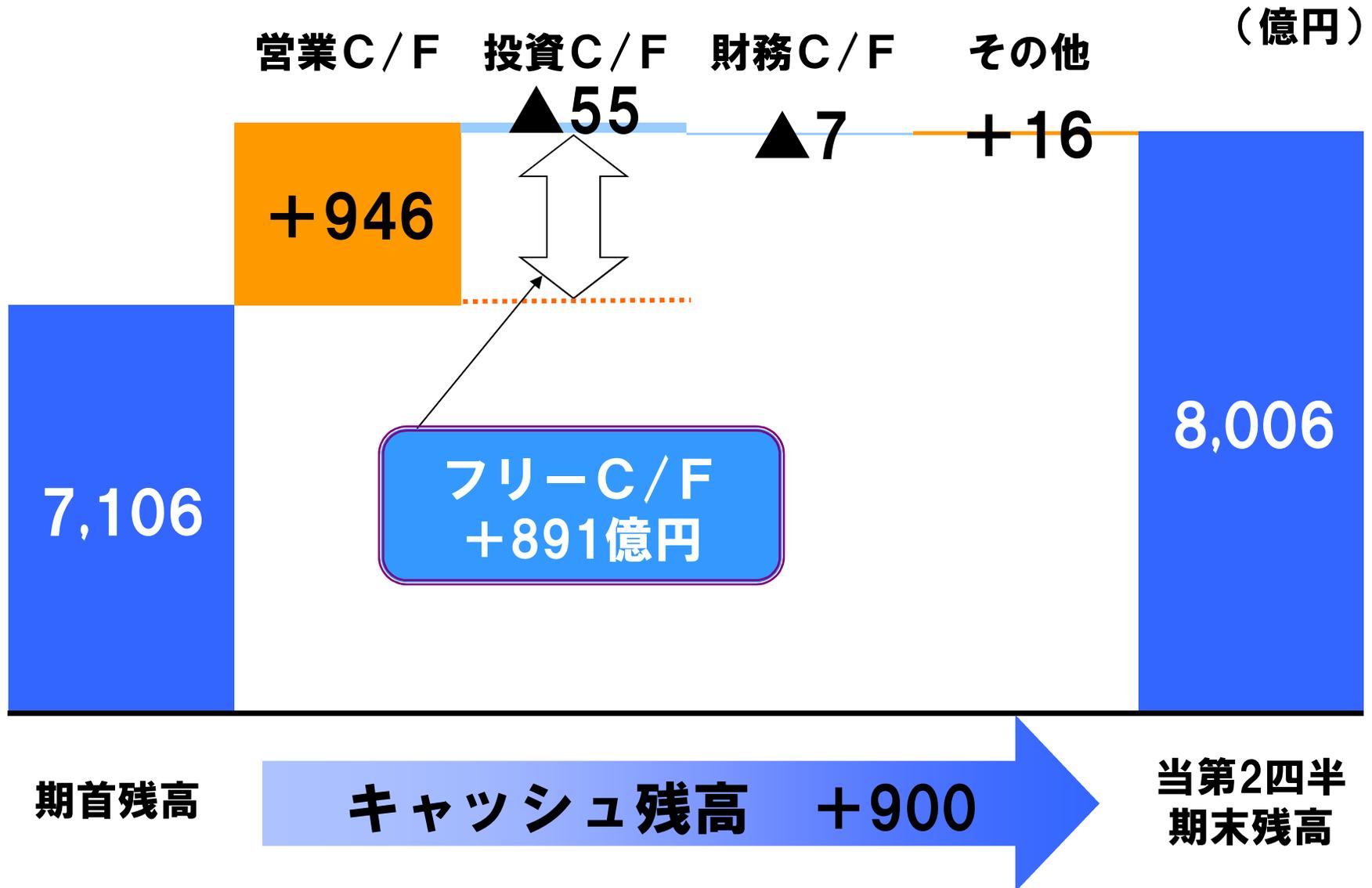
	当第2四半期 (’14/4-9)	前年同期 (’13/4-9)	増 減	営業利益 為替影響
米ドル	103円	99円	+4円	+8億円
ユーロ	139円	130円	+9円	+27億円
インドルピー	1.73円	1.70円	+0.03円	+10億円
インドネシアルピア (100ルピア当り)	0.89円	0.98円	▲0.09円	▲15億円
タイバーツ	3.19円	3.21円	▲0.02円	▲0億円
その他	—	—	—	+17億円
計				+47億円

連結：設備投資、減価償却費、 研究開発費、及び有利子負債残高

(億円)

	当第2四半期 ('14/4-9)	前年同期 ('13/4-9)	増 減
(当社単独)	249	215	+34
(子会社)	695	795	▲100
設備投資	944	1,010	▲66
減価償却費	644	517	+127
研究開発費	602	595	+7

	当第2四半期末 ('14/9末)	前年同期末		前期末	
		('13/9末)	増 減	('14/3末)	増 減
有利子負債残高	4,533	4,214	+319	4,453	+80



連結：事業別業績 (売上高・営業利益)

(億円)

《二輪》

《四輪》

《特機等》

売上高

+727 (+6.0%)
12,035 12,762

売上高

▲151 (▲10.9%)

売上高

+29 (+10.4%)

売上高

前年同期

当第2四半期

1,386

1,235

営業利益

前年同期

当第2四半期

営業利益

+8 (赤字縮小)

営業利益

▲13 (▲1.5%)

営業利益

+7 (+17.8%)

▲10

▲2

871

858

42

49

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

8回目の受賞(4ストローク船外機では
業界最多となる7回目の受賞)

■低燃費

- ・メカロス低減技術の採用
(クラス初のローラーロッカーアーム、
オフセットクランクシャフト)
- ・リーンバーン(希薄燃焼)制御システム
- ・吸気温度低減による燃焼効率向上
(ダイレクト吸気、エンジンカバー換気)

■バッテリーレス電子制御燃料噴射装置の採用

- ・寒冷時でもエンジン始動を確実にし、
きびきびしたアクセル操作と、
なめらかな走行を可能にした

■部品単位での軽量化によりクラス最軽量実現

- ・ポータブル船外機としての利便性向上



※アメリカマリン工業会(NMMA: The National Marine Manufacturers Association)は、北米のレジャーボート業界の主要な協会。

技術革新賞は、マリン産業における新製品のうち、技術的に優れた先進性があり、実用的かつ費用効率が高く、真に消費者の利益となる製品に与えられるマリン技術界最高の賞である。

スズキ船外機の高い技術力が認められた

連結：所在地別業績 (売上高・営業利益)

(億円)

売上高

前年同期

当第2四半期

三国間取引

《日本》

売上高

+366 (+4.6%)

7,922

8,288

(285)

(796)

(三国間取引)

7,637

7,492

三国間取引
を除く売上高

営業利益

▲63 (▲9.5%)

664 601

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

《欧州》

売上高

+657 (+43.8%)

2,156

(550) (三国間取引)

1,499

1,606

(14)

1,485

営業利益

+39 (黒字化)

▲35 +4

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

《アジア》

売上高

+210 (+3.6%)

5,810

6,020

営業利益

▲77 (▲21.8%)

350 273

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

《その他》

売上高

▲22 (▲2.8%)

782 760

営業利益

+28 (黒字化)

▲8 +20

前年同期 当第2四半期
'13/4-9 '14/4-9

営業利益

前年同期

当第2四半期

	当第2四半期末 (’14/9末)	前年同期末		前期末	
		(’13/9末)	増減	(’14/3末)	増減
連結 子会社数	133社	135社	▲2社	133社	±0社
持分法適用 関連会社数	37社	37社	±0社	37社	±0社
従業員数	57,409人	57,545人	▲136人	57,749人	▲340人

(億円)

	今 回 通期予想	前期比較		前回予想比較	
		前期実績	増減	前回予想	増減
売上高	30,000	29,383	+617	30,000	—
営業利益	1,880	1,877	+3	1,880	—
経常利益	1,980	1,978	+2	1,980	—
当期純利益	1,150	1,075	+75	1,150	—
増減要因	原価低減	+250	+252	+250	—
	為替影響	+50	+543	▲90	+140
	売上・構成変化等	▲107	+478	+33	▲140
	諸経費等の増	▲80	▲529	▲80	—
	減価償却費の増	▲80	▲235	▲80	—
	研究開発費の増	▲30	▲78	▲30	—
計	+3	+431	+3	—	
設備投資	2,300	2,136	+164	2,300	—
減価償却費	1,250	1,172	+78	1,250	—
研究開発費	1,300	1,271	+29	1,300	—

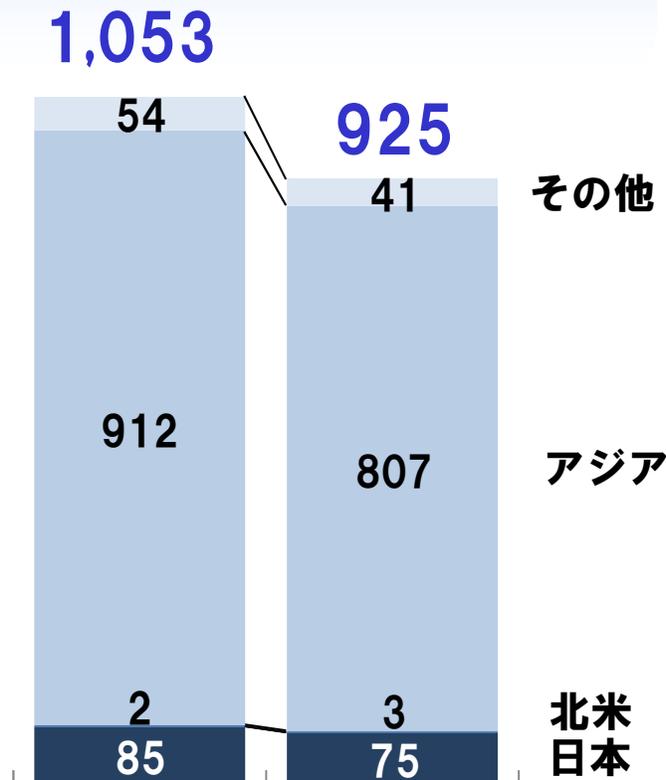
連結：通期業績予想 (為替レート前提)

	今回予想 (2014.4~2015.3)			為替影響	前期比較 (2013.4~2014.3)		前回予想比較 (2014.4~2015.3)	
	上期実績	下期予想	通期予想		通期実績	増減	通期予想	増減
米ドル	103円	105円	104円	+13億円	100円	+4円	100円	+4円
ユーロ	139円	137円	138円	+22億円	134円	+4円	135円	+3円
インド ルピー	1.73円	1.70円	1.72円	+29億円	1.68円	+0.04円	1.65円	+0.07円
インドネシア ルピア※	0.89円	0.85円	0.87円	▲20億円	0.93円	▲0.06円	0.85円	+0.02円
タイ バーツ	3.19円	3.20円	3.20円	+1億円	3.18円	+0.02円	3.10円	+0.10円
その他通貨				+5億円				
為替影響額 計				+50億円				

※インドネシアルピアは100ルピア当りのレート

《4～9月比較》

▲128千台(▲12.1%)



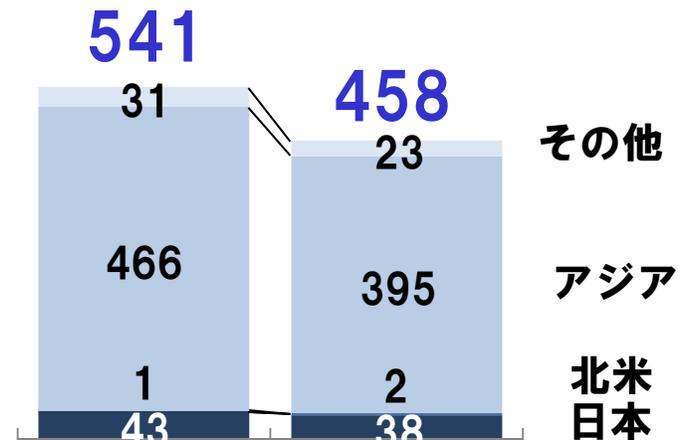
前年同期
'13/4-9

当第2四半期
'14/4-9

《7～9月比較》

▲83千台(▲15.3%)

(千台)



前年同期
'13/7-9

当第2四半期
'14/7-9

二輪車事業を浜松工場 (浜松市北区) に集約

豊川工場の二輪車体組立も浜松工場に集約

- 現状…3カ所に分散
 - ・設計・開発 …「二輪技術センター(静岡県磐田市)」
 - ・エンジン製造 …「高塚工場(浜松市南区)」
 - ・二輪車体組立…「豊川工場(愛知県豊川市)」
- 集約の理由
 - ・地震・津波対策
 - ・3カ所に分散している二輪車事業を集約
 - ・海外での地産地消が進み、国内での生産量が減少
- 効果
 - ・設計、開発、実験からエンジン、パワートレイン製造、車体組立までを一貫化
 - ・多様化する二輪車の商品開発と生産の効率化
- 雇用確保
 - ・「豊川工場」の従業員(約470名)の雇用確保(近隣工場や事業所等への異動)
 - ・船外機生産は湖西工場に移管
- 集約時期
 - ・5年かけて段階的に実施
 - ・「豊川工場」での生産は2018年7月に終了予定

二輪技術センター



高塚工場



豊川工場



《4～9月比較》

▲124千台(▲11.8%)

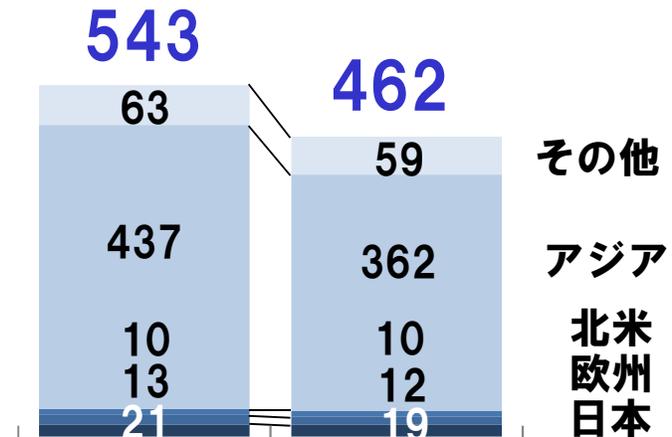


前年同期
'13/4-9

当第2四半期
'14/4-9

《7～9月比較》

▲81千台(▲15.0%)



前年同期
'13/7-9

当第2四半期
'14/7-9

(千台)

《4～9月比較》

▲113千台（▲13.4%）

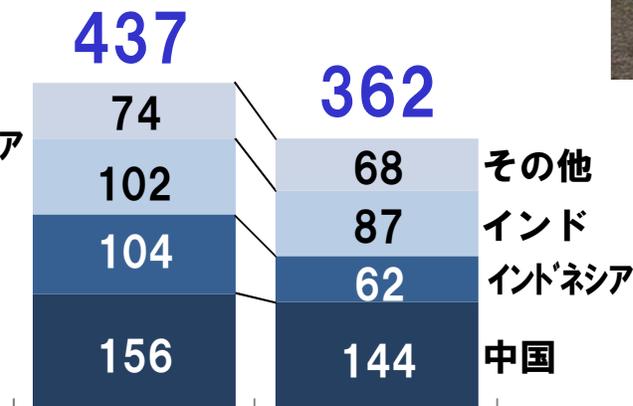
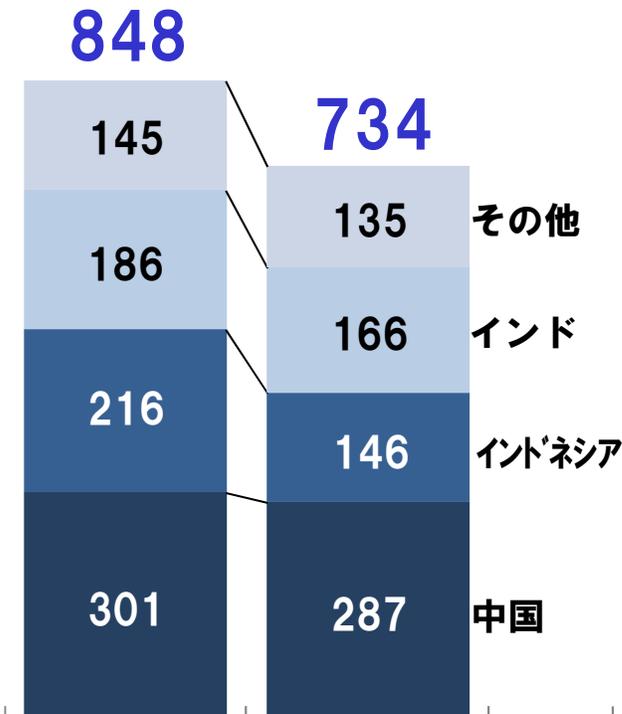
《7～9月比較》

▲75千台（▲17.2%）

Gixxer (India)

- ・新型155ccスポーツ二輪車
- ・インドで8月から発売

（千台）



前年同期 '13/4-9 当第2四半期 '14/4-9

前年同期 '13/7-9 当第2四半期 '14/7-9

ドイツ・ケルンのインターモトにてモトGP参戦を発表

- 新開発の「GSX-RR」と参戦ライダー、チーム体制を発表
- 2012年よりモトGPへの参戦を一時休止していたが、同レース復帰に向けて車両開発を継続
- モトGP参戦を通じ商品へのフィードバックを行うことで、より魅力的な商品の開発を進めるとともに、ブランドイメージの向上を図る

(ご参考) インターモトで2015年海外向け二輪新型車発表

■ 「GSX」シリーズの新型モデル

「GSX - S1000/ABS」「GSX - S1000F/ABS」

「GSX」シリーズに新たに「GSX - S」として投入するストリートバイク



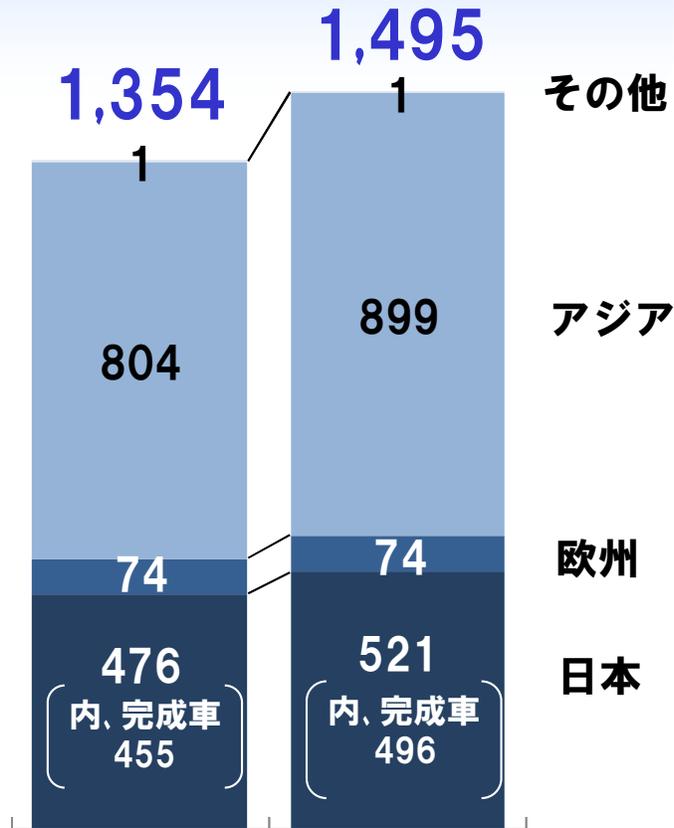
GSX-S1000F/ABS

- 冒険をイメージさせるデザインのスポーツアドベンチャー ツアラー 「V - Strom650XT ABS」
- 低燃費スクーター 「Address」
- ABSを追加したスーパースポーツバイク 「GSX - R1000 ABS」
- 新設計のハーフカウルを装着した 「Bandit1250S ABS」



GSX-RR

《4～9月比較》
+140千台(+10.4%)



前年同期 '13/4-9
当第2四半期 '14/4-9

《7～9月比較》
+43千台(+6.3%)

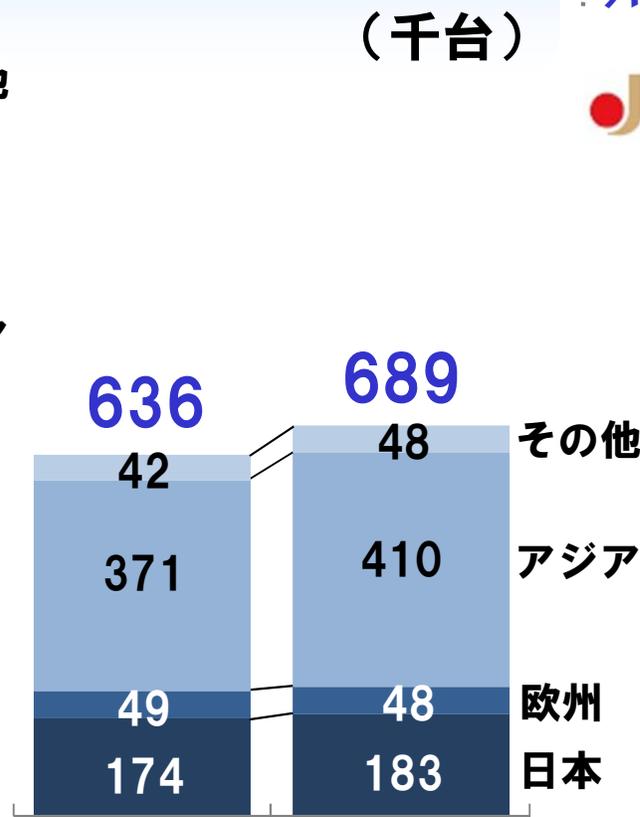
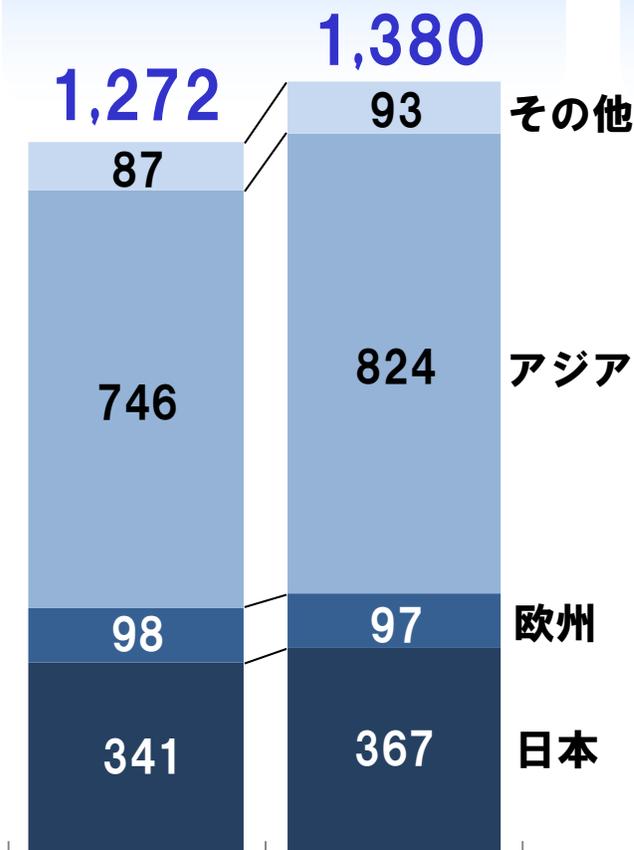


前年同期 '13/7-9
当第2四半期 '14/7-9

(千台)

《4～9月比較》
+108千台(+8.5%)

《7～9月比較》
+53千台(+8.4%)



ハスラー

2014～2015 CAR OF THE YEAR
JAHFA 日本自動車殿堂
 カーオブザイヤー



GOOD DESIGN
AWARD 2014

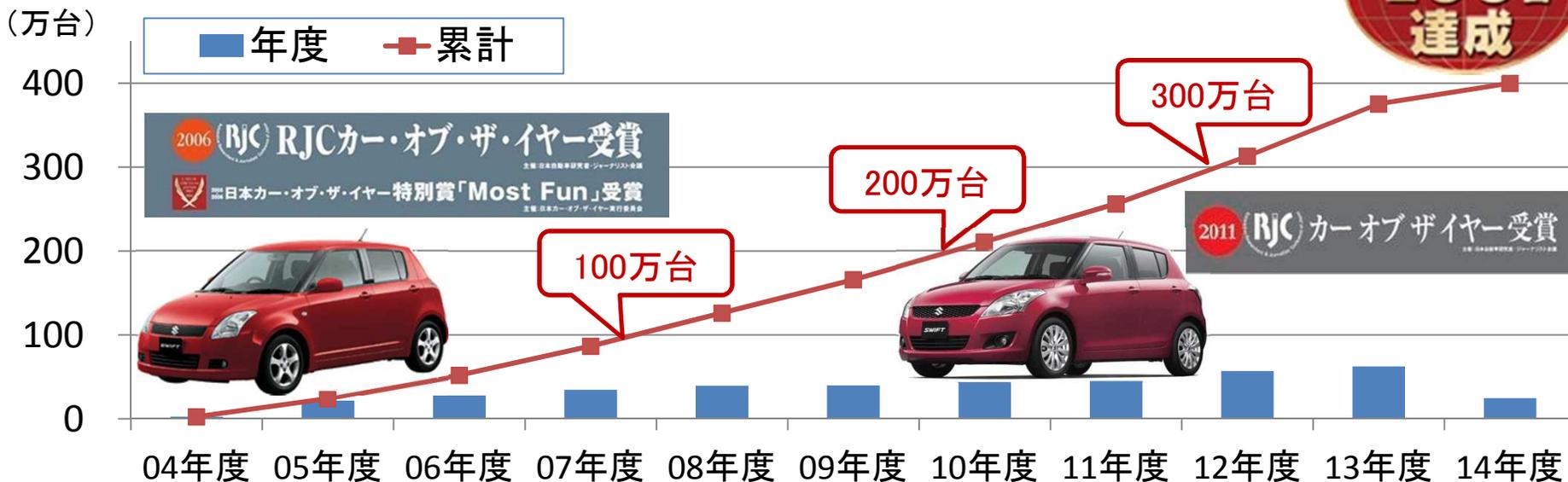
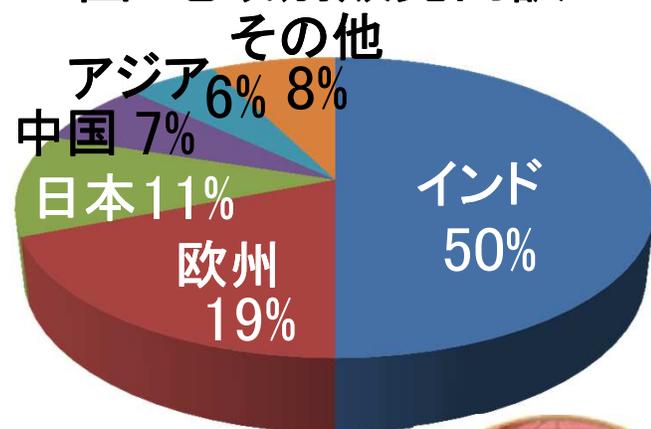
前年同期 '13/4-9
当第2四半期 '14/4-9

前年同期 '13/7-9
当第2四半期 '14/7-9

スイフトが世界累計販売 400万台を達成

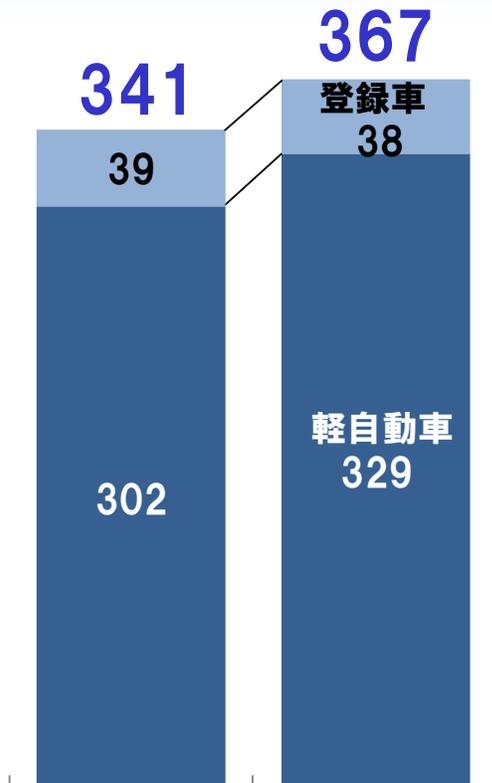
- 2004年の発売開始から9年9カ月で達成
- スズキが得意とする小型車作りのノウハウと、スタイリッシュなデザイン、楽しくスポーティーな走りへのこだわりや想いをこめた世界戦略車として、2004年11月に日本で生産・販売を開始
- インドで約半数を販売、欧州19%、日本11%
- 日本をはじめ世界の国々で数多くのカーオブザイヤー賞を獲得

《国・地域別販売内訳》



《4～9月比較》

+26千台(+7.6%)



前年同期
'13/4-9

当第2四半期
'14/4-9

《7～9月比較》

+9千台(+5.3%)

(千台)



前年同期
'13/7-9

当第2四半期
'14/7-9

ワゴンR

- ・ワゴンR、ワゴンRスティングレーに「S-エネチャージ」を搭載
- ・軽ワゴンNo.1※1の低燃費32.4km/L※2を達成



※1 軽ワゴン=全高1,550mm以上の軽自動車。JC08モード走行燃費(国土交通省審査値)に基づく。2014年8月現在、スズキ調べ。

※2 燃料消費率JC08モード走行(国土交通省審査値):FZ・スティングレーXの2WD車

《4～9月比較》

+71千台(+14.7%)

ディーゼル車割合

32%

32%

558

487

330

ガソリン車
379

ディーゼル車
179

前年同期
'13/4-9

当第2四半期
'14/4-9

《7～9月比較》

+46千台(+19.1%)

(千台)

30%

32%

ディーゼル車割合

242

168

288

ガソリン車
194

ディーゼル車
93

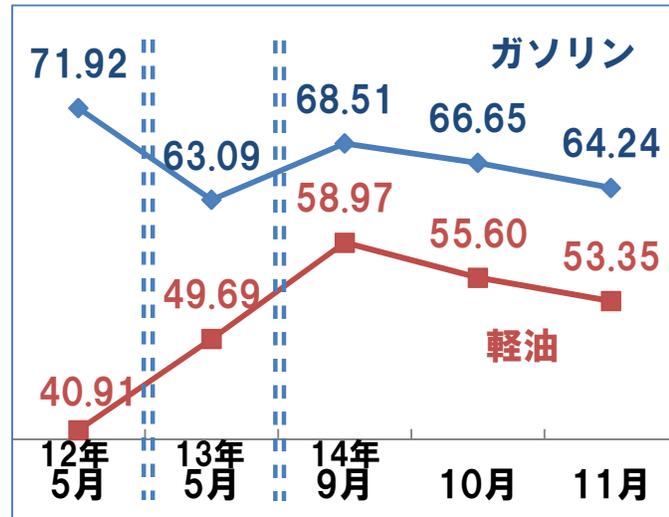
前年同期
'13/7-9

当第2四半期
'14/7-9

CELERIO



＜インド燃料価格推移＞ (ルピー/L)



注1. 月末時点ニューデリー価格

(2014年11月は11月1日現在)

2. 2014年10月より軽油価格も完全自由化

インドで10月から発売、その後世界各地で発売
中国でも「ALIVIO」名で販売予定

■「CIAZ」の特長

- ・重厚・優美なデザインで安定感のある本格的セダンのスタイル
- ・広い室内スペースと後席の快適性
- ・クラス最高の低燃費、優れた安全性能
- ・進化したマルチメディア機能や数々の先進装備類

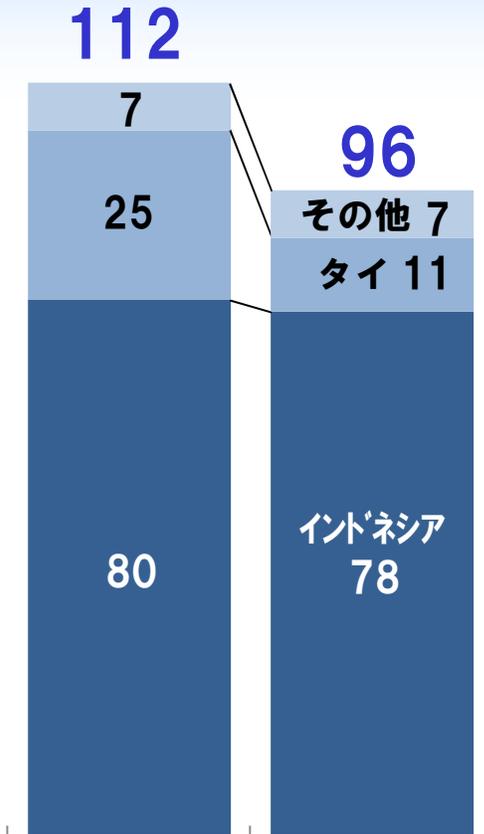
■今後の投入計画

- ・マルチ・スズキ社にて生産し、10月よりインド国内にて発売
- ・その後中近東、中南米、アフリカ諸国にて順次発売
- ・中国では合併会社の重慶長安鈴木で本年中に生産開始し、「ALIVIO」名にて販売する予定



《4～9月比較》

▲16千台（▲14.4%）



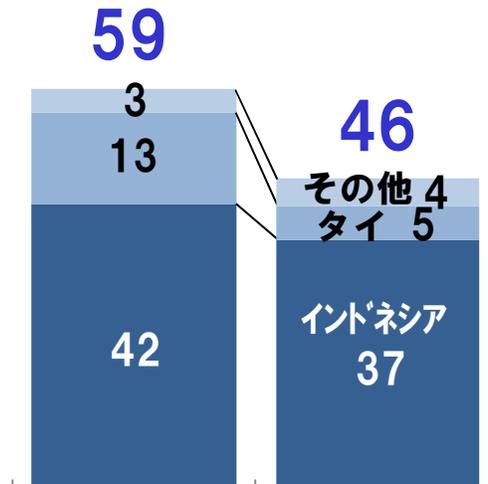
前年同期
'13/4-9

当第2四半期
'14/4-9

《7～9月比較》

▲13千台（▲22.4%）

（千台）



前年同期
'13/7-9

当第2四半期
'14/7-9

WagonR GS (from Indonesia)

- ・ 9月開催のインドネシア国際モーターショーにて、LCGC（Low Cost Green Car）政策適合のワゴンRの新グレード「ワゴンR GS」を発表し、10月から発売
- ・ 2015年の年初から、ジャカルタ東方にあるGIIIC工業団地の新しい四輪車組立工場が稼働、生産能力は25万台へ拡大
- ・ 拡大するインドネシア市場の需要に対応するとともに輸出を強化していく



マジャールスズキで2015年初めより生産、
欧州各国へ供給の計画

■ 新型SUV「VITARA」

- 「JIMNY」、「VITARA」、「GRAND VITARA」
（日本名エスクード）で培ってきた本格四
輪駆動車やクロスオーバーSUVとしての
資質を受継ぐ
- デザイン、走行性能、安全性能、環境性
能などあらゆる面で進化
- 全く新しいコンパクトSUV
- 卓越した走行性能を追求しただけでなく、
ユーザーのライフスタイルを反映できる
クルマとして開発



(8月1日公表から変更)

(千台)

通期生産台数

通期販売台数

予想 (14年度)	前期実績 (13年度)		前回予想からの修正
	増減	増減率	

予想 (14年度)	前期実績 (13年度)		前回予想からの修正
	増減	増減率	

<二輪車>

日本	169	180	▲11	▲6.3%	+5
欧州	—	—	—	—	—
北米	6	5	+1	+10.0%	
アジア	1,710	1,744	▲34	▲1.9%	▲133
その他	84	103	▲19	▲18.4%	▲10
合計	1,969	2,033	▲64	▲3.1%	▲138

74	74	+0	+0.1%	▲1
47	48	▲1	▲1.7%	▲2
45	41	+4	+9.3%	
1,603	1,638	▲35	▲2.1%	▲128
218	227	▲9	▲3.9%	+5
1,987	2,028	▲41	▲2.0%	▲126

<四輪車>

日本	1,006	998	+8	+0.8%	+17
欧州	146	171	▲25	▲14.9%	▲5
アジア	1,861	1,686	+175	+10.4%	+70
その他	2	2	+0	+6.7%	
合計	3,015	2,857	+158	+5.5%	+82

675	728	▲53	▲7.3%	
200	205	▲5	▲2.3%	▲8
1,747	1,596	+151	+9.5%	+57
190	181	+9	+5.2%	+7
2,812	2,709	+103	+3.8%	+56

・ 前回予想を据置き

	当期配当	前期実績比較		前回予想比較	
		前期実績	増減	前回予想	増減
中間配当	10円	10円	±0円	10円 (予想)	±0円
期末配当	14円 (予想)	14円	±0円	14円 (予想)	±0円
年間配当	24円 (予想)	24円	±0円	24円 (予想)	±0円

2015年3月期
第2四半期決算説明会



スズキ株式会社

将来予想に関する注意事項

※このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

※実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。

※実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動(主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場)などが含まれます。